

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年5月15日
【四半期会計期間】	第20期第1四半期（自 2020年1月1日 至 2020年3月31日）
【会社名】	株式会社セルシード
【英訳名】	CellSeed Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 橋本 せつ子
【本店の所在の場所】	東京都江東区青海二丁目5番10号テレコムセンタービル
【電話番号】	03-6380-7490
【事務連絡者氏名】	取締役 最高財務責任者 小野寺 純
【最寄りの連絡場所】	東京都江東区青海二丁目5番10号テレコムセンタービル
【電話番号】	03-6380-7490
【事務連絡者氏名】	取締役 最高財務責任者 小野寺 純
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第1四半期 連結累計期間	第20期 第1四半期 連結累計期間	第19期
会計期間	自 2019年1月1日 至 2019年3月31日	自 2020年1月1日 至 2020年3月31日	自 2019年1月1日 至 2019年12月31日
売上高 (千円)	117,928	31,253	275,824
経常損失 () (千円)	154,286	182,640	786,234
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純損失 () (千円)	152,395	182,074	782,398
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	155,371	188,800	786,283
純資産額 (千円)	1,256,172	1,344,753	1,345,795
総資産額 (千円)	1,459,739	1,460,370	1,456,242
1株当たり四半期 (当期) 純損失 () (円)	13.30	13.69	66.60
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	84.5	90.9	91.1

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期 (当期) 純損失であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ (当社及び当社の関係会社) において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

文中の将来に関する事項は、当第1四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」からの重要な変更は今のところありませんが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響、終息時期等によっては、当社グループの業績及び事業展開に大きな影響を与える可能性があります。

(2) 当社グループが将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況その他の提出会社の経営に重要な影響を及ぼす事象

当社グループは、当社新株予約権の行使による資金調達の実施により、前連結会計年度末の手元資金（現金及び預金）残高は1,065,072千円となり、財務基盤については安定的に推移しております。一方で事業面におきましては細胞シート再生医療事業の重要課題である細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化の道程を示すまでには至っておりません。以上のことから、当社グループは当第1四半期連結会計期間において、引き続き継続企業の前題に重要な疑義を生じさせるような状況が存在していると判断しております。

当社グループは当該状況の解消を図るべく、引き続き以下の施策に取り組んでおります。

当社細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化の実現と事業提携の推進による収益機会の獲得

当社グループは、今後、食道再生上皮シート並びに軟骨再生シートの開発を推進し、当社細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化を実現すること、また事業提携先の開拓を通じて、更なる収益機会を獲得していくことで当該状況の解消を図って参ります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第1四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、年明けからの新型コロナウイルス感染拡大が世界的な脅威となっており、東京五輪・パラリンピックの延期、緊急事態宣言の発令など、極めて不透明な状況が続いており急速な悪化傾向が見られます。

当社グループを取り巻く再生医療分野におきましては、山中伸弥教授によるヒトiPS細胞の発明以降、再生医療への応用など実用的な研究開発が数多く行われるようになり、将来における再生医療分野への期待度はますます高まっております。

以上のような環境の下、当社グループは再生医療支援事業及び細胞シート再生医療事業における活動を推進いたしました。その結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は31,253千円（前年同四半期比86,674千円の減少）、営業損失は182,413千円（前年同四半期比27,633千円の増加）、経常損失は182,640千円（前年同四半期比28,354千円の増加）、親会社株主に帰属する四半期純損失は182,074千円（前年同四半期比29,678千円の増加）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

再生医療支援事業

再生医療支援事業では、販売面におきまして器材製品の拡販に向けた既存代理店との更なる協業強化及び積極的な販売促進活動をした結果、カタログ掲載製品について国内代理店及び海外への売上が前年から引き続き予算対比大幅にアップし、過去最高の売上を達成することが出来ました。また、当社細胞培養センターを活かした再生医療を支援する再生医療受託事業については、共同研究先である東海大学より先進医療にかかる1例目の自己軟骨細胞シートの製造を受託し、第2四半期連結会計期間以降の売上実現へ向け製造の準備を開始しました。

以上のような活動の結果、売上高は29,451千円（前年同四半期比11,523千円の増加）、営業損失は3,741千円（前年同四半期比12,485千円の減少）となりました。

細胞シート再生医療事業

細胞シート再生医療事業では、食道再生上皮シート及び軟骨再生シートの細胞シート再生医療等製品パイプラインの自社開発を中心とした研究開発を推進しております。

食道再生シートパイプラインでは、引き続き追加治験に向け、対象患者のプロトコール、必要な症例数についてPMDAと協議中であり、少しずつではあるが前進しております。なお製造販売承認の時期についてはPMDAとの協議が終わり次第お知らせいたします。

また、海外展開におきましては、当社と台湾の三顧股份有限公司（MetaTech(AP) Inc.）が中心となり出資した台湾での合併会社が2020年の1月に設立され、今後、食道、軟骨以外のパイプライン事業の開発、製造、販売を実施する予定です。

以上のような活動の結果、売上高は1,802千円（前年同四半期比98,197千円の減少）、営業損失は101,555千円（前年同四半期比50,931千円の増加）となりました。

(2) 財政状態の分析

（資産）

当第1四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べて6,028千円増加し、1,251,514千円となりました。これは、売掛金が42,884千円減少した一方で、現金及び預金が99,957千円増加したことなどによります。

当第1四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末に比べて1,899千円減少し、208,856千円となりました。これは、有形固定資産が1,592千円減少したことなどによります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて4,128千円増加し、1,460,370千円となりました。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末に比べて5,169千円増加し、115,617千円となりました。これは、未払法人税等が5,678千円、買掛金が5,648千円減少した一方で、未払金が18,545千円、賞与引当金が10,566千円増加したことなどによります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて5,169千円増加し、115,617千円となりました。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1,041千円減少し、1,344,753千円となりました。これは、新株予約権の行使による株式の発行により資本金が94,533千円、資本剰余金が94,533千円増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失を182,074千円計上し、為替換算調整勘定が6,404千円減少したことなどによります。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社グループが支出した研究開発費の総額は97,478千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動に重要な変更はありません。

(4) 継続企業の前提に関する事項について

当社グループは、当社新株予約権の行使による資金調達の実施により、前連結会計年度末の手元資金（現金及び預金）残高は1,065,072千円となり、財務基盤については安定的に推移しております。一方で事業面におきましては細胞シート再生医療事業の重要課題である細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化の道程を示すまでには至っておりません。以上のことから、当社グループは当第1四半期連結会計期間において、引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在していると判断しております。

当社グループは当該状況の解消を図るべく、引き続き以下の施策に取り組んでおります。

当社細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化の実現と事業提携の推進による収益機会の獲得

当社グループは、今後、食道再生上皮シート並びに軟骨再生シートの開発を推進し、当社細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化を実現すること、また事業提携先の開拓を通じて、更なる収益機会を獲得していくことで当該状況の解消を図って参ります。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において当社が新たに締結を行った経営上の重要な契約は、以下のとおりであります。

契約相手	契約書名	契約内容	契約期間
METATECH(AP) INC, TU, YUAN-KUN, WU, CHUN-LUNG、HONOUR FAST DEVELOPING CO., LTD、CHEN, TSUNG- CHI、TSNENG-JEN-FA、 KAO, FANG-CHEN、 HUANG, LI-CHIN、 KAO, CHIA-WEN、 HSIEH, YI-YU、 CHU, HUI-CHIH	JOINT VENTURE AGREEMENT	台湾における合弁会社設立に関する 基本的事項を定める契約。	2020年1月30日から 契約解除まで

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	35,537,600
計	35,537,600

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年5月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	13,408,219	13,520,619	東京証券取引所JASDAQグロース	完全議決権株式であり権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
計	13,408,219	13,520,619	-	-

(注)「提出日現在発行数」には、2020年5月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

当第1四半期会計期間において、行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る新株予約権が以下のとおり行使されております。

	第1四半期会計期間 (2020年1月1日から 2020年3月31日まで)
当該四半期会計期間に権利行使された当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の数(個)	4,264
当該四半期会計期間の権利行使に係る交付株式数(株)	426,400
当該四半期会計期間の権利行使に係る平均行使価額等(円)	442
当該四半期会計期間の権利行使に係る資金調達額(千円)	188,628
当該四半期会計期間の末日における権利行使された当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の数の累計(個)	19,488
当該四半期会計期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の交付株式数(株)	1,948,800
当該四半期会計期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の平均行使価額等(円)	467
当該四半期会計期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の資金調達額(千円)	911,903

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年1月1日～ 2020年3月31日(注)	426,400	13,408,219	94,533	3,966,868	94,533	1,188,665

(注) 第18回新株予約権(4,264個)の行使による増加であります。

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年12月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 100	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,976,400	129,764	同上
単元未満株式	普通株式 5,319	-	同上
発行済株式総数	12,981,819	-	-
総株主の議決権	-	129,764	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己株式54株が含まれております。

【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社セルシード	東京都江東区青海二丁目5番10号	100	-	100	0.00
計	-	100	-	100	0.00

(注) 当社は、自己株式のうち、単元未満の自己株式を54株所有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2020年1月1日から2020年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、ひので監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,065,072	1,165,030
売掛金	56,562	13,678
商品及び製品	16,489	11,856
仕掛品	1,537	3,694
原材料及び貯蔵品	30,164	28,408
前払費用	19,093	15,073
その他	56,566	13,773
流動資産合計	1,245,486	1,251,514
固定資産		
有形固定資産	29,113	27,520
無形固定資産	552	656
投資その他の資産	181,089	180,678
固定資産合計	210,755	208,856
資産合計	1,456,242	1,460,370
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,313	3,664
未払金	33,733	52,278
未払法人税等	10,574	4,895
賞与引当金	4,244	14,810
前受金	30,114	30,169
その他	22,467	9,798
流動負債合計	110,447	115,617
負債合計	110,447	115,617
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,872,335	3,966,868
資本剰余金	1,094,132	1,188,665
利益剰余金	3,617,630	3,799,705
自己株式	227	227
株主資本合計	1,348,609	1,355,601
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	-	321
為替換算調整勘定	21,340	27,745
その他の包括利益累計額合計	21,340	28,066
新株予約権	18,525	17,218
純資産合計	1,345,795	1,344,753
負債純資産合計	1,456,242	1,460,370

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)
売上高	117,928	31,253
売上原価	10,013	10,021
売上総利益	107,914	21,232
販売費及び一般管理費		
研究開発費	140,194	97,478
その他	122,499	106,167
販売費及び一般管理費合計	262,694	203,645
営業損失()	154,779	182,413
営業外収益		
受取利息	5	5
為替差益	176	232
受取手数料	130	204
還付加算金	175	25
その他	5	16
営業外収益合計	493	484
営業外費用		
新株発行費	-	711
営業外費用合計	-	711
経常損失()	154,286	182,640
特別利益		
新株予約権戻入益	-	868
特別利益合計	-	868
税金等調整前四半期純損失()	154,286	181,772
法人税、住民税及び事業税	1,890	302
法人税等合計	1,890	302
四半期純損失()	152,395	182,074
親会社株主に帰属する四半期純損失()	152,395	182,074

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)
四半期純損失()	152,395	182,074
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	321
為替換算調整勘定	2,975	6,404
その他の包括利益合計	2,975	6,726
四半期包括利益	155,371	188,800
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	155,371	188,800
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

当座貸越契約

当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と当座貸越契約を締結しております。

当第 1 四半期連結会計期間末における当座貸越契約に係る借入金未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第 1 四半期連結会計期間 (2020年 3月31日)
当座貸越極度額	150,000千円	150,000千円
借入実行残高	- 千円	- 千円
差引額	150,000千円	150,000千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第 1 四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第 1 四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 2019年 1月 1日 至 2019年 3月31日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 2020年 1月 1日 至 2020年 3月31日)
減価償却費	974千円	2,051千円

(株主資本等関係)

・ 前第 1 四半期連結累計期間 (自 2019年 1月 1日 至 2019年 3月31日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第 1 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 1 四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

・ 当第 1 四半期連結累計期間 (自 2020年 1月 1日 至 2020年 3月31日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第 1 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 1 四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の金額の著しい変動

当社は、新株予約権の行使に伴う新株の発行により、当第 1 四半期連結累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ94,533千円増加し、当第 1 四半期連結会計期間末において資本金が3,966,868千円、資本剰余金が1,188,665千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	再生医療支援 事業	細胞シート 再生医療事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	17,928	100,000	117,928	-	117,928
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	17,928	100,000	117,928	-	117,928
セグメント損失()	16,226	50,623	66,850	87,929	154,779

(注)1 セグメント損失の調整額 87,929千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に親会社本社の管理部門に係る費用であります。

2 セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	再生医療支援 事業	細胞シート 再生医療事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	29,451	1,802	31,253	-	31,253
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	29,451	1,802	31,253	-	31,253
セグメント損失()	3,741	101,555	105,297	77,115	182,413

(注)1 セグメント損失の調整額 77,115千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に親会社本社の管理部門に係る費用であります。

2 セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり四半期純損失()	13円30銭	13円69銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	152,395	182,074
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失()(千円)	152,395	182,074
普通株式の期中平均株式数(千株)	11,459	13,298
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

(第18回新株予約権の権利行使)

当社が2019年9月2日に発行した第18回新株予約権につき、2020年4月1日から2020年5月8日までの間に、以下のとおり行使されました。

(1) 新株予約権行使の概要

新株予約権の名称

株式会社セルシード第18回新株予約権

行使価格

1株当たり337~353円

行使新株予約権個数

1,795個

行使者

パークレイズ・バンク・ピーエルシー (Barclays Bank PLC)

交付株式数

179,500株

行使価額総額

60,825千円

(2) 当該新株予約権行使による発行済株式数及び資本金

増加する発行済株式数

179,500株

増加する資本金の額

30,505千円

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年5月8日

株式会社 セルシード
取締役会 御中

ひので監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 星 川 明 子 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 羽 入 敏 祐 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社セルシードの2020年1月1日から2020年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2020年1月1日から2020年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2020年1月1日から2020年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社セルシード及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。